

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：32644

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870751

研究課題名(和文)工業化過程におけるベトナム農業の近代化とその影響

研究課題名(英文)The impact of agricultural modernization in Vietnam under the industrialization

研究代表者

高橋 塁 (TAKAHASHI, Rui)

東海大学・政治経済学部・准教授

研究者番号：30453707

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は工業化を進めるベトナムの農林水産業、農村における新たな動きとして、大規模経営主体が発展していることに着目し、その存立要因と経済発展に与える影響を明らかにする。具体的に明らかになった点は以下である。(1)農村人口、農林水産業就業者数の変化が定常的である中、農林水産業の大規模経営主体は重要な雇用吸収の担い手となっている、(2)大規模経営主体の存立要因には地域性があり、また農業機械導入により雇用労働監視問題を克服している、(3)農村・都市間よりも農村内、都市内での所得格差が拡大しており、農村人口、農林水産業就業者数の定常性を裏付けている。

研究成果の概要(英文)：This study clarifies the factors in establishments of large scale agencies in agriculture, forestry and fisheries, the effects of them on the economic development focusing on the fact that they have increased in rural area of Vietnam under the industrialization. We confirmed the following findings; (1) The large scale agencies in agriculture, forestry and fisheries have large absorption of employment in rural area under non-decreasing rural population and persons engaged in agriculture, forestry and fisheries. (2) The factors in establishments of large scale agencies in agriculture, forestry and fisheries differ depending on the area, and the agencies overcome the monitoring problem on hired labour using agricultural machineries. (3) The income disparities within rural or urban area have been expanded larger than between the rural and urban. This fact supports the non-decreasing rural population and persons engaged in agriculture, forestry and fisheries.

研究分野：経済学

キーワード：ベトナム 地域研究 工業化 農村余剰労働力 農林水産業 大規模経営 都市農村間格差

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究開始直前の 2010 年から 2011 年におけるベトナムは、米、コーヒー、コショウ、カシューナッツ、天然ゴムなど多くの農産物において世界有数の輸出国となっており、経済発展における農林水産業・農村の役割が依然として重要であった。他方において 2020 年まで工業国となることが目標として定められており、工業化・近代化路線もとられていた。

(2) 工業化・近代化路線がとられる中、ベトナム経済を支える農林水産業や農村においても、チャンチャイと呼ばれる私営農場の発展や農業経営規模の拡大、土地なし層の増加などといった新たな動きが見られるようになる。しかしながら、そうした現象を対象にした研究は、未だ少ない状況であった。

(3) 農業経営規模については、「農家経営規模と土地生産性の逆相関関係」(以下、「逆相関関係」という古典的な問題が存在し、今日でも発展途上国における小農の効率性を支持する現象として多くの分析が行われている背景があった。我々は本研究開始前にベトナム農村において「逆相関関係」を確認していたが、これは大規模農業経営の増加とは相反する現象であったため、なぜ大規模農業経営がベトナムにおいて進展しているか解明する必要があった。

(4) さらに農業経営規模の拡大は工業化・近代化の中で目指される路線として示されることが多いが、ベトナムにおける農業経営規模拡大が工業化による経済発展路線にどのような影響を与えるか分析した研究も少ない状況であった。他方、開発経済学では工業化過程における農業部門と工業部門の関係、農村と都市の関係は、農業に代表される伝統部門や農村における過剰労働力由来の労働移動という観点からアーサー・ルイスやラニス＝フェイ、ハリス＝トダロ等のモデルで議論されることも多いが、実際に研究開始時のベトナムでは農村過剰人口が問題となっていた。

(5) 以上の背景から農村の大規模農業経営が雇用労働を用いていることに着目し、それらの雇用吸収力、貧困削減効果を評価するとともに、農村都市間、農業工業間の労働移動に与える影響を検討して工業化の方向性や農村主導による経済発展の可能性を模索する研究が必要であった。ゆえに農村の大規模経営の存立要因と工業化に対する影響を統一的に把握する試みを着想した。またベトナム農業は地理的・気候的な要因により多様である一方で既存研究は北部と南部に集中し、中部ベトナム農業・農村の研究は手薄の状態であった。本研究では中部農業・農村の研究も重視し、比較の視点を取り入れることに努

めた。

2. 研究の目的

(1) 本研究全体の目標は、工業化・近代化路線により経済発展著しいベトナムに焦点を当て、農林水産業の経営規模拡大が進展する新しい農村動向に着目し、その存立要因と経済発展に与える影響を分析することにある。

(2) それゆえ第 1 の目的は、大規模経営の存立要因を開発経済学の古典的命題である「逆相関関係」の枠組みから捉え、農業経営規模拡大の要因と意義を明らかにすることである。

(3) 第 2 に、経営規模の拡大が農林水産業のみならずベトナムの工業化ないし経済発展全体に与える影響を考察する。

(4) そして第 3 に歴史的背景や地理的、気候的要因によるベトナム農業の空間的多様性を考慮し、特に研究の手薄な中部農業・農村の特徴を明らかにする。そのうえで既存研究に多い北部・南部農業との比較・対比を通して分析結果の一般化を試みる。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、研究対象となるベトナムの既存データによる統計分析、現地実態調査による情報収集およびその分析を中心に遂行された。研究代表者はベトナム語を駆使した実態調査および現地資料の活用を行った。現地実態調査はベトナム農業の地域的多様性を意識し、中部クアンガイ省、南部メコンデルタで実施された。

(2) また本研究では、上記調査情報に加え、ベトナム統計総局が刊行している農林水産業・農村センサス等のマクロデータ、VHLSS (ベトナム家計生活水準調査) などの農家レベルのマイクロデータに計量経済学的手法を用い、「逆相関関係」を基にした大規模経営存立要因、大規模経営の雇用吸収力、貧困削減効果、工業化に与える影響についてマクロ的視点とミクロ的視点からの統一的理解を得ようとした。計量経済学的手法では不十分な点は、上記現地実態調査によって補完された。

4. 研究成果

(1) 農村人口の定常化とその要因

2020 年まで工業国となることを目指し、工業化・近代化路線を進めるベトナムでは、農林水産業の生産比率 (GDP に占める農林水産業部門の付加価値の割合) と工業・建設業部門の生産比率が 1990 年代前半には上回るようになった (図 1)。

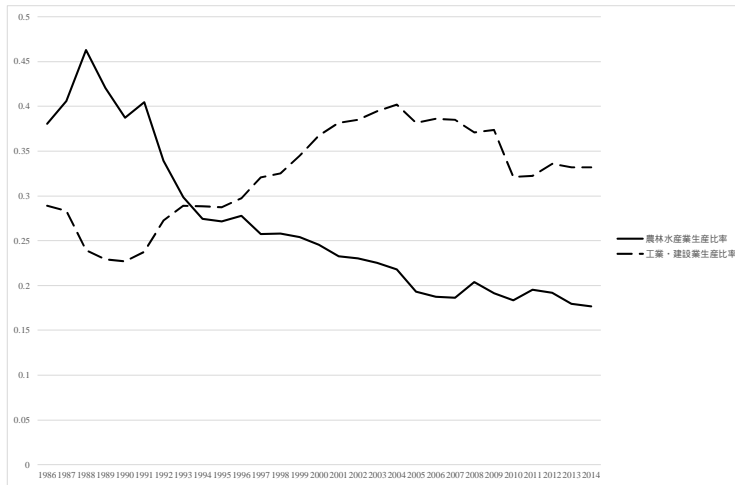


図1 農林水産業および工業・建設業生産比率の推移

他方、農林水産業就業者数や農村人口は、それぞれ全就業者数、全人口に対する比率では減少しているが、実数では一向に減少する気配を見せず「農村人口の定常化」というべき現象が確認された。この背景には、農村内で雇用機会があること、工業部門、都市部への労働移動が農村の過剰労働力を十分吸収するほど進んでいないことが示唆された。

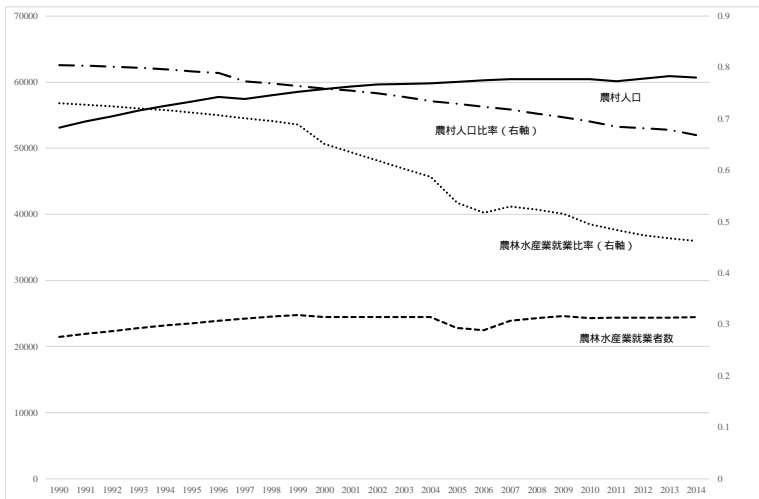


図2 農村人口および農林水産業就業者数の定常化

(2) 私营農場の多様性とその存立要因

農村の過剰労働力を吸収するものとして既存研究では、農村工業の発展、地方工業団地開発に伴う農村からの通勤型雇用により非農業雇用が増加したことが指摘されている。他方において、本研究で確認されたように農林水産業就業者数もまた定常化していることから農林水産業においてもそれなりに雇用吸収の場があると考えられた。

そこで本研究は農村において農業経営規模が拡大しているという現状からチャンチャイと呼ばれる大規模私营農場の発展に着目し、それが土地なし層増加と雇用労働を吸収していることが考えられた。

ところで、一般に発展途上国では、既述の通り「逆相関関係」が確認されることが多く、小規模農家の効率性が指摘される。「逆相関関係」が強く働く状態は大規模農業経営が非効率的であり、適切な資源配分を行っていないことが示唆される。本研究においても、新しくVHLSSの分析を行うことによりベトナムの農家に「逆相関関係」が確認された。これは大規模農業経営の発展と相容れない結果といえる。

しかしながら、「逆相関関係」の程度は地域によって異なることも見出されており、全体として大規模農業経営が進展している地域において「逆相関関係」の程度が緩やかであることもわかった。

さらに「逆相関関係」を分析するにあたり、北部農村で問題となっている分散錯圃のほか農作物の作付選択が重要な要因であることがわかった。

以上を背景に、我々は規模農業経営の多様性と存立要因を検証した。チャンチャイと呼ばれる大規模な私营農場は雇用労働力を用いることが確認されたものの、雇用労働にはモラルハザードの問題が付随するため、適切な監視を行う必要がある。それゆえ監視能力を向上させるために農業機械が導入されていた。

チャンチャイは地理的に業態が多様である。我々は中部クアンガイ省と南部ティエンザン省のチャンチャイを調査したが、それらは水産業となるエビ養殖を主業としたチャンチャイであった。また、いずれのチャンチャイでも雇用労働力が用いられていた。南部のティエンザン省では、穀倉地帯であるメコンデルタ地域ということもあり、稲作からエビ養殖へ転業、中部クアンガイ省では、元は教師や公務員、商人であった人々がエビ養殖の経営者になっていることが多かった。このようにチャンチャイ、大規模経営の経済機会に応じた存立要因にも地理的、環境的な差が窺われた。

(3) 農林水産業における大規模経営の雇用吸収力

以上のようにチャンチャイ等の大規模経営主体は、雇用労働力を用いることで発展すると考えられる。それゆえ、大規模経営主体は、農村における農林水産業部門の重要な雇用吸収主体であることが計量経済学的分析に

よって明らかにされた。

(4) 工業化と労働移動

既述の通り「農村人口の定常化」、「農林水産業就業者数の定常化」が確認されているが、その背景として、農村から都市への移動のほか、農村から農村への移動、都市から農村への帰還移動もまた多いことが確認された。またチャンチャイ経営主への転業も農林水産業から同産業へ、非農林水産業から農林水産業への労働移動とみなされる。都市部、工業部門への労働移動もみられるが、雇用吸収という観点からは豊富とはいえない。

(5) 都市農村間格差と域内格差

「農村人口の定常化」、「農林水産業就業者数の定常化」が確認され、都市部、工業部門への労働移動もみられるものの、雇用吸収の観点から豊富とはいえない状況は、農村主導の経済発展を示唆するものである。工業化が進展する場合、一般的には農村人口、農林水産業就業者数の減少がみられるが、なぜ見られないのであろうか？

この要因を考えるために我々は都市・農村間格差と都市内、農村内格差を推定する研究を行った。手法としてはVHLSSを用いたカーネル密度推定とタイル指数による不平等のサブグループ分解によった。この結果、いくつか重要なことが明らかになった。

第1に、社会主義経済が浸透していた北部ベトナムにおいて、初期時点では都市・農村間格差と都市内、農村内格差は小さいが、その後の拡大が大きい。第2に全体として都市農村格差は1990年代から2000年代後半にかけてあまり大きな変化はないものの、都市内、農村内格差は拡大の傾向にある。第3に都市部の不平等度は規模として農村部を上回り、ゆえに大都市が存在する地域の不平等度は大きい。第4に農村部の不平等度はいったん縮小するが、その後拡大している。第5に全体の不平等は、都市・農村格差よりも都市内、農村内格差により大部分が説明される(図3)。

これらのファクトファインディングは、都市・農村間に有意な所得格差がないことを意味しており、農村から都市へと移動する過剰労働力が豊富とはいえなかったことと整合性がある。都市・農村間で有意な所得格差がない理由については、ベトナムの工業化と農業、農村を考えていく重要な糸口になると考えられよう。

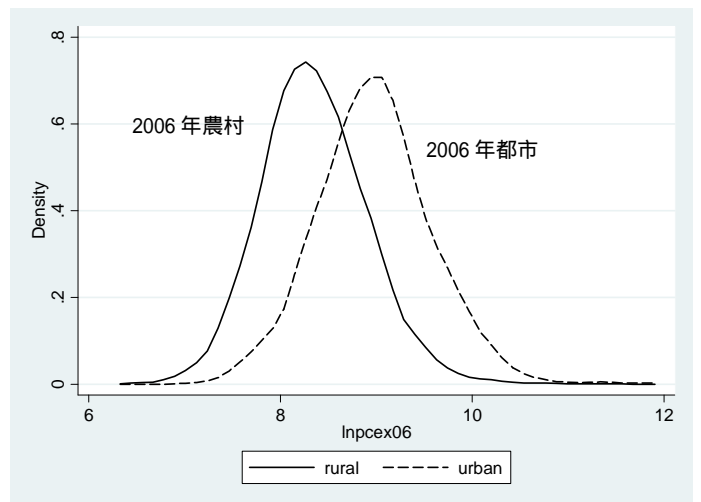
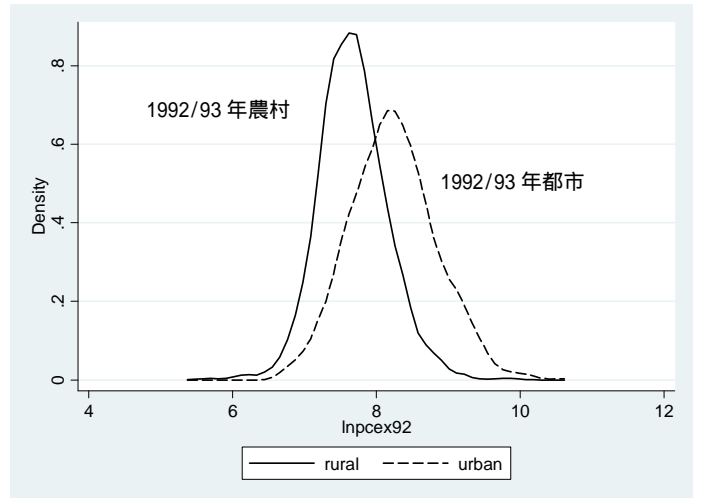


図3 農村・都市部における消費支出の分布(1992/93-2006年)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

高橋壘、工業化過程におけるベトナム農業の特徴と問題点、東海大学紀要 政治経済学部、査読無、48号、2016、発行準備中

[学会発表](計1件)

高橋壘、現代ベトナムにおける都市vs農村格差とその要因、統計関連学会連合大会、2015年9月8日、岡山大学(岡山県)

[図書](計3件)

統計総局、ゲン ティ タン トゥイ(訳) 高橋壘(監修) ピスタ・ピーエス、ベトナム統計年鑑 2013年版、2015、953

統計総局、ゲン ティ タン トゥイ(訳) 高橋壘(監修) ピスタ・ピーエス、ベトナム統計年鑑 2012年版、2014、899

統計総局、グエン ティ タン トゥイ (訳)
高橋 壘 (監修)、ピスタ・ピーエス、ベ
トナム統計年鑑 2011 年版、2013、915

〔その他〕

ホームページ等

高橋 壘、一橋大学大学院経済学研究科博士
学位申請論文、ベトナム農業・農村の長期的
変容と展開 農業近代化の模索、2014、187
<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/26848>

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 壘 (TAKAHASHI, Rui)
東海大学・政治経済学部・准教授
研究者番号： 3 0 4 5 3 7 0 7

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：